平成 27 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	筑波大学
研究開始年度	平成26年度

Ⅰ　概要

１　指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立	特別支援学校	肢体不自由	筑波大学附属桐が丘特別支援学校（つくばだいがくふぞくきりがおかとくべつしえんがっこう）

２　研究テーマ

学習に遅れのある肢体不自由児に対する各教科の指導内容の精選・重点化，指導の工夫に関する研究

３　研究の概要

本研究は，下学年や下学部の各教科の目標・内容により編成する教育課程に在籍する児童生徒と知的障害特別支援学校の各教科を中心とした教育課程に在籍する肢体不自由児（以下学習に遅れがある肢体不自由児）に対する指導において指導目標・指導内容をどのように精選し，どのような基礎的・基本的な事項に重点をおいて指導を行うと，効果的な指導が可能になるのかを探る研究である。

ついては，学習に遅れがある肢体不自由児における実践研究を通じて以下の点を検証し，効果的な指導内容及び指導方法について教科の指導を中心に検証・提示した。

① 小学部から高等部までの各学年等の国語，算数・数学，社会，理科（知的障害特別支援学校の各教科を中心とした教育課程においては教科前から小学部までの国語と算数）の指導内容を系統的に指導ができるように，教科の系統性と発達段階や障害特性をふまえた上で精選を行った。（他教科や他の指導との関連，将来の社会生活等をも見据えて）

② ①において精選した教科の基礎的・基本的な事項を指導できるよう，指導目標・指導内容の重点化を図った。

③ 精選・重点化した指導目標・指導内容について，小学部から高等部までの指導（知的障害特別支援学校の各教科を中心とした教育課程においては教科前から小学部までの指導）が系統的になされるための指導方法を検証した。

４　研究の成果

研究対象である2つの教育課程ともに，教科の系統性と個々の障害特性という二つの視点から肢体不自由児に対する指導の在り方の研究を行った。特に，指導目標・指導内容の精選・重点化について具体的に研究を行った。

下学年や下学部の各教科の目標・内容により編成する教育課程においては，教科の系統性について分析を行い，教科の特質をふまえての指導目標・指導内容の精選・重点化を行った。精選・重点化の結果として国語（すべての領域）・算数，数学（すべての領域）・社会（地理分野）・理科（問題解決能力が中心）において指導目標・指導内容の系統表を作成し，重点化した指導を行った。また，これらをどのように用いて重点化を行ったのかについて手続きを明示した。

知的障害特別支援学校の各教科を中心とした教育課程においては，単に教科を系統化するのではなく，「生活を豊かにしていく力」を目指して，教育課程としての目標をよりよく達成するために教科を系統化して行うという考えに基づき国語・算数について研究を行った。算数・国語において系統化を行う上で，学習指導要領の教科以前の部分も段階化して設定を行い，内容系統表，指導内容の系統表およびチェックリストを作成し重点化した指導を行った。

上記の研究により，成果としては以下の点があげられる。

・二つの教育課程において，類型にとらわれずに，個に応じた指導目標・指導内容を設定していく手続きについて明確にしていくことができた。

・系統表を用いた指導を行った事で，育てたい力と児童生徒についている力を見とり，何が積み重なり，どのようになっていくかを明確にすることができた。

・連携協力校との研究により，その有効性を検証することができ，同時に課題抽出も行った。

・本研究ではすべての教科で「思考・判断・表現」を重視した指導となった。これは研究対象の教育課程の児童生徒に対して，教科の軸と個別性という軸の2軸から指導目標・内容を重点化した結果である。教科を横断して育てたい力について研究を行っていく上で重要な視点となった。

５　課題と今後の方策

・本研究は教科に関わる研究であり，すべての教科について検討していくことが必要となるが時間はかかる。また，12年間においてどのような力がついていくかを検討していく上でも長い時間がかかる。今後も研究を継続していく必要がある。

・本研究は教科の特質・系統性をふまえて精選・重点化し，力を着実に積み重ねていくものである。一方で学校教育目標やキャリア教育等とどのように明確に関わっていくかも再検討が必要である。

・教科を横断して育てた力を考え，実践し評価していくことが必要である。本研究では教科において「思考・判断・表現」に着目して育てたい力の実践研究を行ったが，今後より具体的に総合学習や自立活動などの場面でも実践研究が必要である。

・本研究は当校の児童生徒を対象に行われたものである。事例としては少ない中での研究である。今後は精選・重点化の手続きをわかりやすく明示して，連携校とともに事例を通してさらなる検証が必要である。

・本研究では教科についてのものであり，評価に関して教科としての観点別評価を明確に用いるなど普通学校での教育の知見が大変有効であった。今後も通常教育との連携が必要である。

・教科の視点をより有効に用いるには，個別の指導計画の有効な運用と自立活動と授業との関連を明確に共有していく必要がある。この点についても今後検討していく必要がある。